

学びと誇りが実感できるまち

～手書きの手紙を書こう！～

令和2年9月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人



星空へ店より林檎あふれをり

(橋本多佳子)

暑い暑い毎日が続いています。

今年の夏は、お盆を過ぎてからも暑さが大変厳しくなり、新型コロナウイルス感染症防止とともに熱中症にも注意喚起を行い取り組みを行ってきました。特に、学校生活を送っている子供たちには、エアコンの効いた教室での学習をはじめ、通学時には傘をさすことやマスクをはずすこと、水分補給をすることなど、一人一人が自分の体調を考えて行動してきました。今後の暑さは和らぐでしょうが、引き続き家庭において免疫力を高めるために、十分な睡眠と適度な運動・バランスの取れた食事など健康管理に努めた生活を願います。

さて、今回は「手書きの手紙を書こう！」についてです。

私たち大人もそうですが、子供たちは1年間にいったいどのくらい、誰に、どんなときに、手紙を書いているのでしょうか。電話やメール、ラインなどが発達している時代に、手紙（はがき、封書）を書く良さは何でしょうか。

次の表は、令和元年度、日本郵便株式会社が中学生を対象に実施した「手紙の認識度調査結果」の一部抜粋資料です。

【最近1年以内にどのような手紙(はがき)を送りましたか(複数回答有)】 (%)

学年	年賀状	暑中・残暑 見舞い	お礼状	招待状	懸賞の 応募	その他	送って いない
1年生	60.2	20.0	7.3	2.5	11.6	4.9	12.7
2年生	70.2	17.5	33.9	1.7	8.5	3.1	15.6
3年生	73.0	23.2	32.3	0.9	6.8	3.2	12.3

(調査対象；全国国公立中学校：609校、生徒数：65,670人)

手紙の良さは、書く目的や対象がはっきりしていますので、相手のことを思い浮かべ、心を込めて書くことで、自分の気持ちが相手に伝わっていくことがあります。

さらに、手紙を書くことを通して、「限られた紙面に伝えたいことをまとめる力が付くこと」「時候の挨拶を考え、絵はがき・切手などを選ぶとき、季節を楽しむ豊かな心が育つこと」「文字を丁寧に書く習慣が付いていくこと」「自分自身を振り返ることができること」など、多くの学びがあります。

電話やメールなどで用件をすますことが多い今日ですが、子供たちには是非とも機会を見つけて、ちょっとしたことでもいいので、手紙（はがき）に自分の思いや考え、伝えたいことなどを表現して投函してほしいと思っています。